

環境が人をつくる

がっこうちょう かねこまさと
学校長 金子正人

入学式・始業式から3週間あまり、子どもたちはすっかり学校に、新しいクラスに慣れて元気に学校生活を楽しんでる様子です。1年生は学校探検で広い学校の校舎や敷地をくまなく探検して歩いています。初めてプールを探検した子どもたちは「大きいね」「入りたいね」と大喜びです。そして校内で顔を合わせると「こんにちは！」と元気にあいさつをしてくれます。気持ちの良いあいさつができることはとても素敵なことです。ぜひ1年間続けてほしいと思います。その1年生の成長ぶりに担任が驚いています。名札が自分でつけられるようになったり、朝の支度が一人ですることができるようになったりしました。給食の配膳や白衣の着替えも短い時間でできるようになりました。

短期間で子どもたちが成長していく姿を見ると「環境が人をつくる」という言葉の意味を考えさせられます。私たち大人はつつい「〇〇しなさい」とか「〇〇しなきゃダメでしょ」という言葉がけをしがちですが、環境を変えたり、整えたりすることで、言葉でいうより何倍もの効果を発揮することがあります。1年生は「小学生になった」というワクワク感や「たくさん勉強するぞ」というやる気で心を満タンにして入学してきます。「今までの自分とは違うんだ」「小学生になったんだから」という気持ちをもつことで見違えるほどに力を発揮できるものです。そんなときは「さすがは1年生だね」「小学生になるとこんなこともできるんだね」と自尊心をくすぐる言葉がけをすることで、成長を後押しできます。

いろいろな場面で学校の最上級生としての役割を果たす6年生も、環境が変わって役割が与えられるたびに違う顔を見せてくれます。先日は児童朝会で各委員会の委員長を紹介するテレビ放送がありました。委員長になった6年生は放送室の前に並んでメッセージを何度も練習し、いざ本番ではいつになく立派な態度で委員長としての抱負を語っていました。また、1年生の教室に給食や掃除のお手伝いに派遣された6年生は、かわいい1年生のお世話を焼きながら自分たちに期待されている役割を自覚していきます。牛乳パックの開き方を丁寧に教えてあげたり、重い机を一緒に運んであげたりと優しく頼れるお兄さんお姉さんの役割を果たしてくれます。1年生が少々わがままを言ったり、約束を守らないことがあったりしても決して怒らず優しく諭しています。「普段やんちゃなあの子にもこんな一面があるのだ」と大人が気づかされることも多々あります。こうした場面に出会うと「さすが南吉田小学校の6年生」と心から嬉しく思います。

環境が大きく変わる3月から4月は、別れと出会いの季節であると同時に、子どもたちが大きく成長できる時期でもあるのです。1年間子どもたちの素敵な姿を見つけて、保護者や地域の皆様とともに成長を喜べるように環境をつくっていききたいと思っております。